

# 文化情報

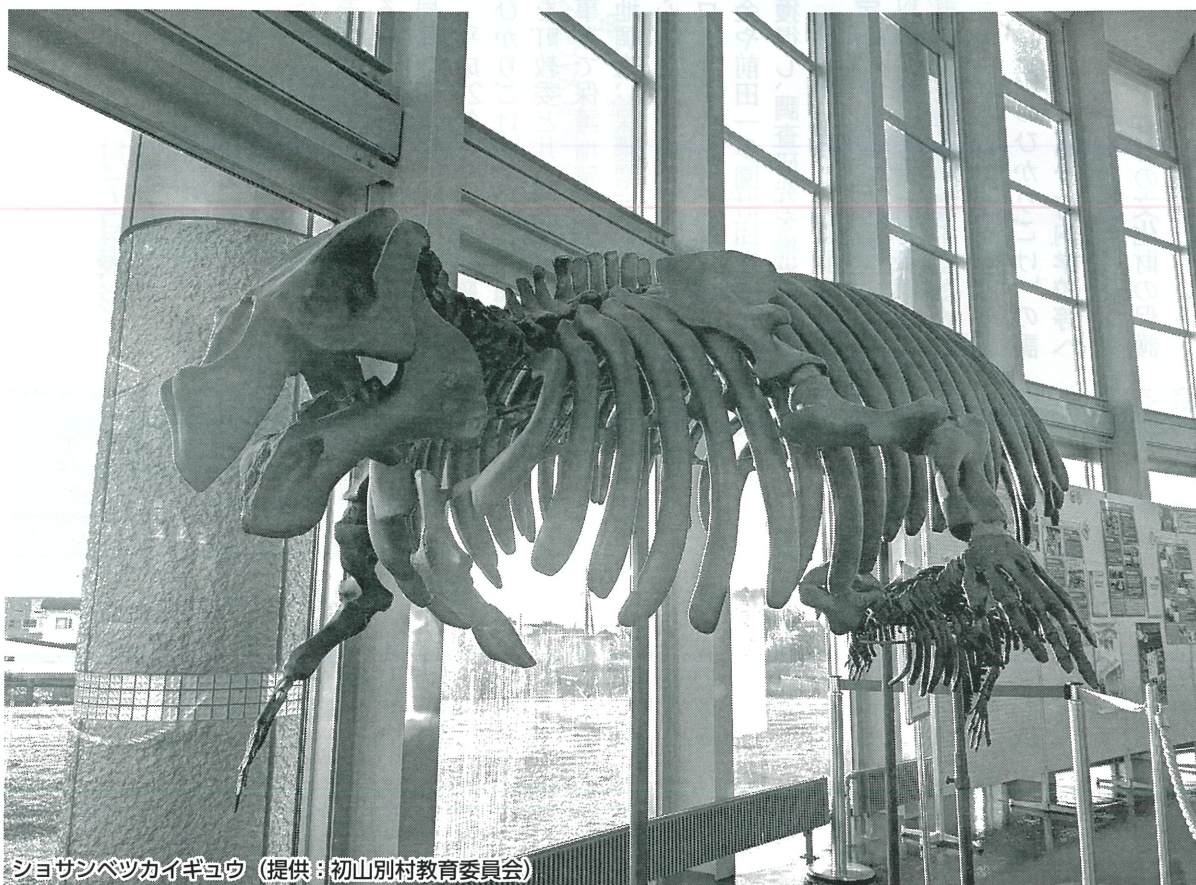
会報 Vol.401  
令和6年11月1日発行  
SINCE 1961  
一般財団法人  
北海道文化財保護協会

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7ビル9階 電話・FAX;011-271-4220

Website; <https://hokkaido-bunkazai.jp>

E-mail; [bunho@abelia.ocn.ne.jp](mailto:bunho@abelia.ocn.ne.jp)

## 初山別 親子カイギュウ



シヨサンベツカイギュウ (提供: 初山別村教育委員会)

この標本は1967年に風連別川の南支流、小沢川で初山別村明里の長坂茂吉氏(故人)によって発見・採取されていた。

化石の一番大きいブロックは既に兵庫県姫路市の化石コレクターの手に渡っていた。1990年古澤仁氏と共に兵庫県の化石所有者を訪ねてこの化石の意義を説明したが返却ならず、後に姫路市立科学館に寄贈された。多くの標本は地元の豊岬小学校に展示された。初山別村教育委員会にこれらの化石の重要性を説き、収集して化石の研究と復元を提案した。化石研究は古澤氏が、地質研究は木村等が日本地質学会の機関誌に報告した(1995年)。

地元に残っていた化石は、古澤氏の所属していた沼田町自然史研究室に運び、クリーニングを進めた結果、2体の化石が認められ、その大きさと化石の配置から、母体と胎児が重なって化石になっていることが判明した。世界中で例を見ない大発見であった、古澤氏の指導で親子の復元レプリカを作成し、初山別村の交流センターに展示した。氏の研究結果、初山別海牛化石は、これまで道内で発見・研究されてきたタキワカイギュウ(体長7.6m)や北広島島のステラーカイギュウ(体長7.5m)等はアメリカ西海岸を北上しながら、寒冷地に適応して歯に加えて咀嚼板を持って海藻を大食して大型化した *Hydrodamalis* 属とは異なり、初山別カイギュウ(体長3.6m)は1,100万年前の後期中新世の温暖な時代の化石であり、南方のアジア大陸海岸沿いに北上して、北海道の海域に棲み着いた *Metaxytherium* の新種のカイギュウと予測し研究中である。哺乳動物が胎児を持った化石の姿はあまりにも珍しく世界に誇れる標本である。(当協会理事 木村方一)